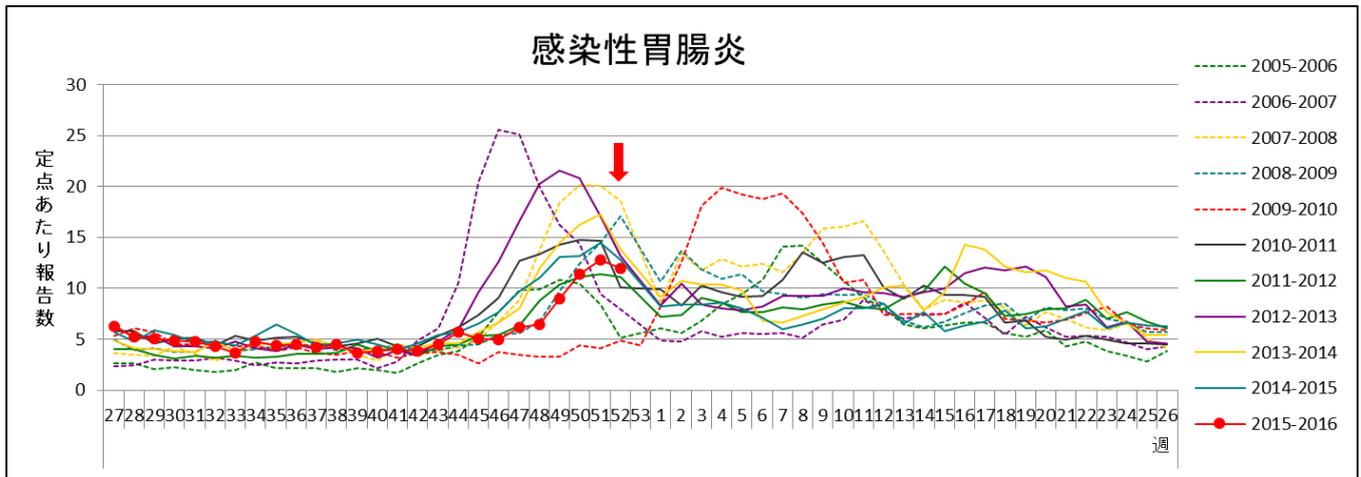


感染性胃腸炎週報 2015年 第52週 (12月21日～12月27日)

【お知らせ】次週、2015年第53週(12/28～1/3)の感染性胃腸炎週報は、2016年1月12日(火)にホームページへ掲載いたします。

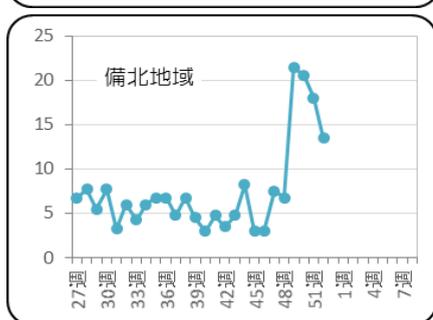
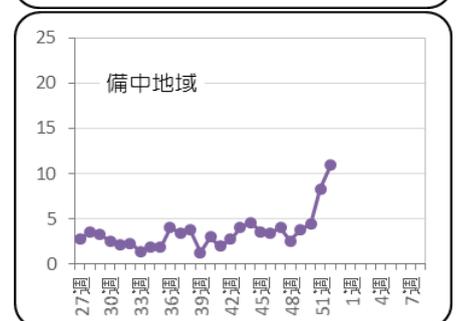
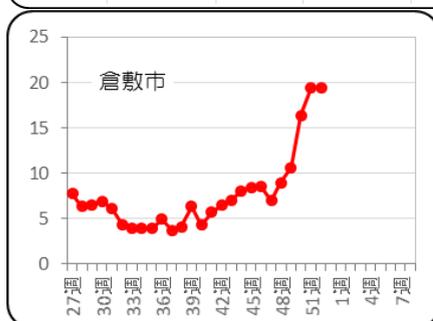
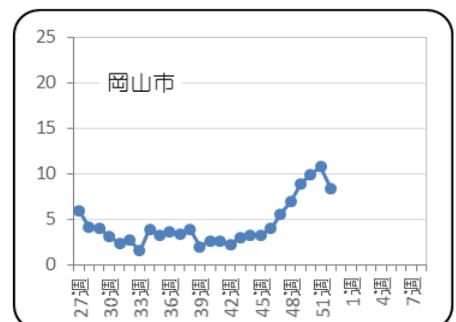
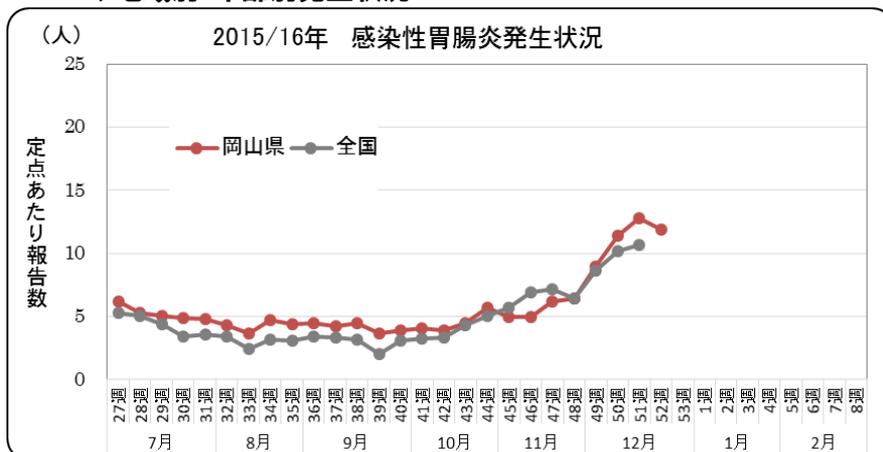
- 感染性胃腸炎は、県全体で643名(定点あたり12.81→11.91人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。
- 感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が2施設でありました。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で643名(定点あたり12.81→11.91人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。依然として多くの患者が報告されており、備北地域の幼稚園と備中地域の小学校の計2施設で臨時休業の報告がありました。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



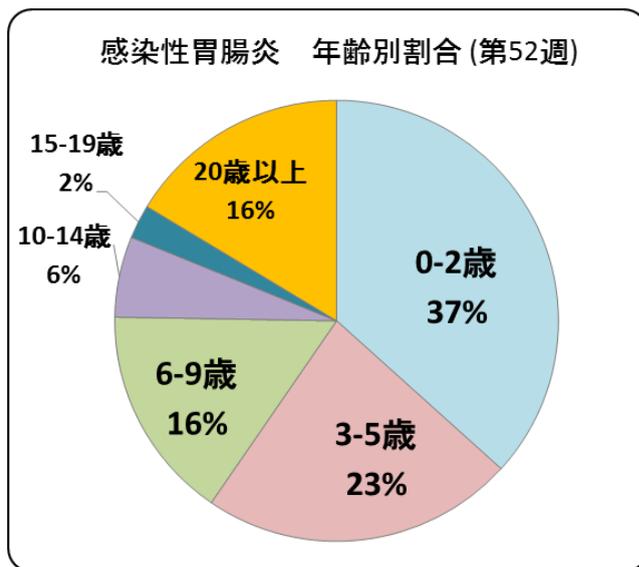
地域別では、倉敷市（19.45人）、備北地域（13.50人）、備中地域（11.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。また、備北地域では、ひきつづき「発生レベル3」となっています。年齢別割合では、0-2歳が37%と最も高く、次いで3-5歳 23%、6-9歳 16%の順となっています。

感染性胃腸炎感染症マップ 2015年 52週



レベル3		レベル1		報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12	0 20未満	0	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



ウイルスを原因とする感染性胃腸炎の治療は、特別な薬がないため、対症療法が中心です。通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

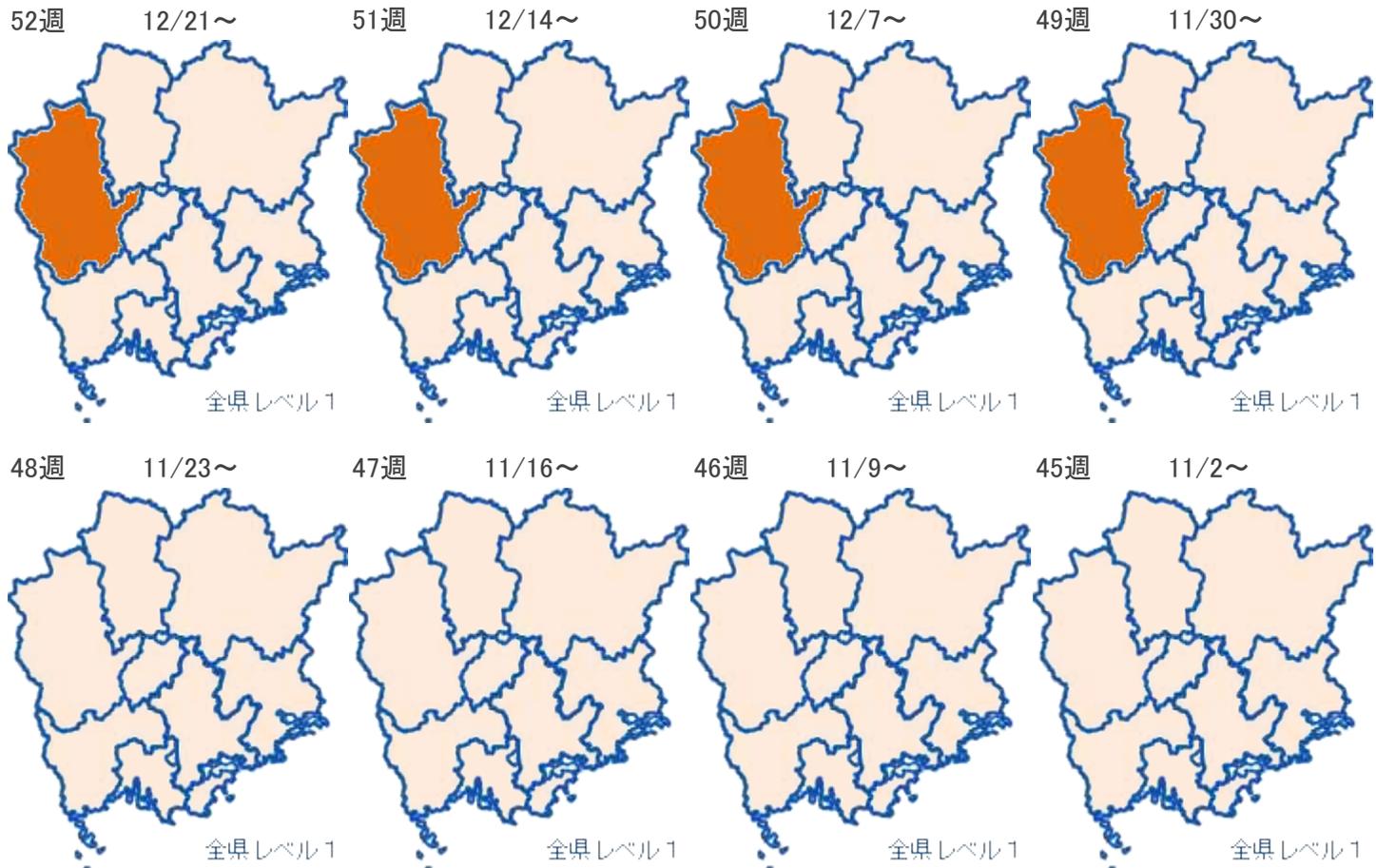
1. 最も大切なことは手を洗うことです。
排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。
おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。
3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。
おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。
※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。
4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）
二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。



岡山県地区別 感染性胃腸炎感染症マップ 2015年 52週

2016年1月5日

10:54:59



感染性胃腸炎

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。